



ウイークリーシグナル

2026年1月23日

<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位:億円)

日付	資金需給予想			主要要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
1/26 (月)	+ 600	+ 4,400	+ 5,000	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補完供給 + 3,400		日:党首討論会
1/27 (火)	+ 1,000	▲ 3,000	▲ 2,000	国債発行 (GX5年)			日:衆院選公示 米:FOMC (1日目) :消費者信頼感指数 (1月)
1/28 (水)	トシ	+ 2,000	+ 2,000				日:金融政策決定会議事要旨 (12月18・19日分) :金融政策決定会議事録 (2015年7月~12月間催分) 米:FOMC (2日目)
1/29 (木)	+ 1,000	▲ 4,000	▲ 3,000	国債発行 (40年)			米:貿易収支 (11月) 欧:ユーロ圏消費者信頼感指数 (1月)
1/30 (金)	+ 700	▲ 5,500	▲ 4,800	気候変動	▲ 69,700		日:失業率 (12月) :有効求人倍率 (12月) :鉄工業生産 (12月) 米:PPI (12月) 欧:ユーロ圏GDP (4Q)

<インバーアンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆1,600億円減少の462兆4,300億円から始まった。その後、国債買入オペや国債発行等の要因により増減し、23日は463兆6,700億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まった。その後もビッドサイドの調達意欲は底堅く、同金利は横ばいで推移した。

ターム物は1W~3W物0.720%~0.870%のレンジ、1M~3M物0.800%~0.900%のレンジで出合が見られた。

日銀は金融政策決定会合において、次回までの金融市场調節方針として、無担保コールレート（O/N物）を0.75%程度で推移するように促すと決めた。

来週の予定は、国内では27日に衆院選公示、28日に金融政策決定会議事要旨（12月18・19日分）の公表、海外で27・28日にFOMC、30日にユーロ圏GDP（4Q）の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ~ 0.728
1M	0.775 ~ 0.85
2M	0.78 ~ 0.85
3M	0.83 ~ 0.90
6M	0.95 ~ 1.10

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.80 ~ 1.00

<レポ>

足許GCは週を通して+0.745%~+0.755%の狭いレンジで取引された。買い入れオペや短国債の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470~480回債、5年155~183回債、10年356~371、378~380回債、20年110~130回債、30年86~88回債などに引合いが見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆3,875億円で、週間償還額の1兆1,035億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆8,014億円から、1月22日時点で26兆226億円へと増加した。発行市場では、鉄鋼・ガス業・小売業・不動産業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.70%台後半から0.80%台、3か月物で0.90%台、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約3兆790億円となっている。発行市場は、月末スタートの大量発行により、活況が見込まれる。発行レートは、1月22・23日の金融政策決定会合で、市場の予想通り政策金利が0.75%で据え置かれたことから、次回利上げの時期を見極める展開となるだろう。

<TD>

19日の1Y（1357回債）の入札は、最高落札利回り0.9764%（前回債0.8749%）、平均落札利回り0.9693%（前回債0.8627%）となった。

22日の3M（1358回債）の入札は、最高落札利回り0.7393%（前回債0.7132%）、平均落札利回り0.7277%（前回債0.7079%）となった。

来週の入札は30日に3Mが予定されている。